

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が主役！ 生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現

1. 授業や特別活動を通じ、生徒が生き生きと学び、将来へのキャリア形成が着実に進める。
2. 規律を遵守し、規範意識を持ち、正しさを一貫して追求する。
3. 生徒の多様な進路を保障しつつ、社会に有為な技術者を送り出す。
4. 地域に貢献し、地域に開かれた学校になる。

2 中期的目標

1 学力向上への取組み

- (1) 生徒が積極的に授業に参加し、基礎的・基本的な学力の定着ができるよう、生徒との信頼関係をベースにした授業改善に取り組む。
 - ア 生徒の実態を把握し、学力伸長に向けた授業を展開する。また、少人数授業、選択科目の充実を行い「わかる授業」を実践する。
 - ・ 教員の授業力向上のため、教員相互の研究授業の活性化や外部との連携による研修の充実を図る。
 - イ 生徒による授業評価を有効に活用するとともに、生徒が主体的に授業に参加できるよう授業の工夫・改善を進める。
 - ウ 学校での読書活動を一層推進するとともに、授業等における図書館機能の活用を図る。
 - ※生徒による授業評価における授業満足度（H28：79%）を、H31 年度には 82% をめざす。
- (2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。
 - ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため企業や大学等と連携し、職業教育の充実を図る。
 - イ 生徒が職業資格等を取得するよう、学校設定科目に取り入れるなど組織的な取組みを行う。
 - ウ 英語によるコミュニケーション能力を育成するなど、国際社会に通用する技術者を育成する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断結果における実習授業における満足度（H28：75%）を、H31 年度 82% をめざす。
 - ※資格取得者の増を図り、ジュニアマイスター（全工協会）H31 年度ゴールド 5 人、シルバー 10 人をめざす。（H28 G：3、S：8）

2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ

- (1) 人権教育に立脚した他者と連携する力の育成に努めるとともに、生徒との信頼関係をベースにした毅然とした生徒指導を行う。
 - ア 生徒の発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。
 - イ 問題行動の防止や再履修生及び転退学者の減少に努める。
 - ウ 情報に関する倫理教育の充実を図る。
- (2) 分掌・学年等の取組の中で、生徒の自己実現への支援に努める。
 - ア 支援教育の充実のため教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。
 - イ 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、府教育庁等の事業を活用しながら、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
 - ウ 工学系大学進学専科の指導充実を図り、国公立大学への進学を含め生徒の多様な進路希望の実現を図る。
 - エ 中途転退学者率の減少（H28 年度 1.69%）。また、就職・進学とも全員内定を各年度の目標とする。
 - オ 卒業後の追跡調査の精査をめざすため、3年後の離職率調査を実施する。また、進学した生徒の学習状況調査を実施する。
 - ※中途転退学者減少（H28 年度 1.69%）を H31 年度 1.5% ※就職 1 次内定率の向上（H28 年度 84.8%）H31 年度 80% 以上
 - ※進学希望実現度（H28 年度 82%）を H31 年度 90%、3年後の離職率（H28 年度 21.7%）を 20% 以下へ

3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立

- (1) 創立 80 周年を契機に、揺るぎない教育機関としての機能を充実させる。
 - ア 記念事業を成功させ、本校教育の特色を外部に発信する。
 - イ 魅力ある教育活動が進められるよう、学習環境の整備を進める。
 - ウ 産業界をはじめ外部組織からの支持基盤を確立する。
 - ※諸事業の実施成功、安定した企業求人確保
- (2) 中学校への教育内容や進路実績を戦略的に広報し、志願者の安定的確保を図る。
 - 入学者選抜に係る希望調査時倍率及び志願者倍率の向上（H29 選抜：1.10 倍）
 - ※平成 31 年度選抜 工学系・総合募集ともに志願者倍率 1.15 倍をめざす。
- (3) 魅力ある工業教育について研究を進め、意欲ある教員の育成に努める。
 - ア 世代交代が進む中、若手・中堅教員の研修・育成を進める。
 - イ 退職教員が増える中で、中堅や若手が「ものづくり」の技術を継承する。
- (4) 生徒が生き生きと学校生活を送り、未来を支援できるよう学校組織の改善を進める。
 - ア 部活動の環境整備を図るとともに、安全対策の強化を図る。
 - イ 学校課題について将来検討委員会等で検討し、組織的に迅速な実行を進める。
 - ウ 職員の一人ひとりが学校経営に参画し、経営的視点を持つことのできる組織づくりを進めるとともに、教職員が互いの情報を共有化するため、校内イントラネットを活用した校務の ICT 化を進める。
- (5) 地域貢献し、地域に愛される学校づくり
 - ア 特別活動（行事、生徒会、部活動）を中心とした、地域への貢献を進める。
 - イ 企業や地域との連携を深め、学校の活性化を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11・12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○本校の学校教育自己診断は、毎年 1 年生と 3 年生の生徒・保護者及び教職員に対して実施している。 (以下の数値は、肯定的意見の比率を示す)</p> <p>【生徒が主役の学校づくり】 <生徒調査> ・「学校満足度」1 年 74% (H28:80%)、3 年 83%(H28:79%)</p>	<p>○第 1 回学校協議会【H29.7.24】</p> <p>[質問] 大学進学専科の専門科目 25 単位は、どのような内容で実施しているのか？ (回答) 機械・電気・情報関連の内容を行い、進学をめざして行っている。</p> <p>[質問] 大学に進学した卒業生で、困ったことはないか？ (回答) ある生徒は、高校時代に実用英語検定準 1 級を取得するなど成果があり、大学入学後は、今のところ困っていない状況である。</p>

府立淀川工科高等学校

<p>・「淀工生の自覚と誇り」 1年 61% (H28:72%)、3年 76% (H28:69%) ・「文化祭等行事が盛ん」 1年 82% (H28:85%)、3年 82% (H28:81%) ・「部活動が盛ん」 1年 80% (H28:85%)、3年 82% (H28:85%) ※生徒は、体育祭や文化祭などの生徒会活動を謳歌し、部活動が活発であるという意識がある。なお、学校に対する愛校心は学年が上がるにつれて強まっている。</p> <p>【学習指導】 <生徒調査> ・「実験実習が興味深い」 1年 75% (H28:75%)、3年 79% (H28:74%) ・「資格取得に熱心」 1年 54% (H28:52%)、3年 67% (H28:71%) ※工科高校の実技科目に関心が高い。資格取得については、学年が上がるにつれて意識が高まっている。</p> <p>・「家庭学習の実行」 1年 21% (H28:18%)、3年 32% (H28:22%) ※家庭学習に大きな課題があるが、昨年度からは特に3年生でポイントは増加している。</p> <p>・「授業に意欲的参加」 1年 62% (H28:66%)、3年 70% (H28:58%) ※昨年よりも改善している。</p> <p><教員調査> ・「学習形態の工夫改善」 87% (H28:78%) ・「思考力重視の学習指導」 52% (H28:57%) ※工夫改善に努めているが、思考力の育成には今一步である。今後、組織的な授業改善や学習指導に一層努めたい。</p> <p>【生徒指導】 <生徒調査> ・「服装などルール・マナー」 1年 71% (H28:69%)、3年 73% (H28:72%) ・「携帯電話マナー」 1年 48% (H28:46%)、3年 50% (H28:47%) ※ルールやマナーに対する一層の取組みが必要である。</p> <p><教員調査> ・「生徒指導の組織的取組」 63% (H28:57%) ※教員の異動等により、組織的な取組みが確立しつつある。</p> <p>【進路指導】 <生徒調査> ・「HRで進路や生き方の考える機会」 1年 46% (H28:41%)、3年 55% (H28:57%) ・「進路に備えた行事充実」 1年 67% (H28:68%)、3年 73% (H28:67%) ※HRでの進路指導の充実を今後も図る必要がある。</p> <p>【保護者】 ・「工科高校に進学させて良かった」 1年：87% (H28:88%)、3年 97% (H28:85%) ※高い水準で肯定されている。</p>	<p>[質問] インターンシップの増加傾向であるが、企業確保はどうしているか？ (回答) 就職先等の企業に依頼して、インターンシップ先を確保している。 [質問] 遅刻者数を減らす方策はどのようにしているか？ (回答) 10分登校を推奨。教員が校門に立ち啓発している。 【意見】 今後とも、粘り強く家庭との連携が必要である。 [質問] 転・退学者数の少ない理由は？ (回答) 資格取得や部活動など、目的意識をもっている生徒が多いので少ない。 【意見】 部活動等の勉強以外の価値や、入学してみたい学校にする必要がある。</p> <p>○第2回学校協議会【H29.11.29】 [質問] 基礎力診断テストの結果について、入試の志願倍率の高い年度は上位層の生徒が入学しているが、2年生になると上位層が少なくなるのは？ (回答) 基礎学力テストは国語・数学・英語の三教科で実施している。学年が上がるにつれて専門教科の単位数が増え、3教科の取組みが弱くなる。 [質問] 総合募集と工学系とは、学力差はあるのか。 (回答) 入試倍率の高いときには、成績上位層が多い。隔年ごとに入試倍率の高い年が交互にある。 【意見】 授業見学・授業参観等において、アンケートをとってはどうか。 [質問] 大学進学後の追跡調査は行っているか。 (回答) 工科高校推薦枠で大学進学した生徒の追跡調査は、工科校長会で行っている。 [質問] 中学生が工業に対する興味・関心が薄れてきている。医療系・看護系を希望する生徒が多い。教育大学出身の教員が多く、理科の実験ができない場合が多い。大阪市では理科を専門に教える教員の比率は高い。生徒に興味をわくような授業をしなければならない。中学校教員は工科高校の内容を知らない。保護者も知らない。 (回答) 生徒の希望が少ないため、来年度は9工科高校中、4校は学級減。全国的にも工業高校は減ってきている。 【意見】 工科高校において、イノベーションをあげる教育が必要である。 [質問] 中学校訪問時の学年の先生に会った感触はどうか。 (回答) 中学校訪問の報告書によると、熱心に質問をしてくる中学校の先生もあれば、そうでない先生もある。</p> <p>○第3回学校協議会【H30.2.28】 <学校運営協議会> [質問] 学校協議会から学校運営協議会への移行は、どのような変更があるのか。 (回答) 基本的には変わらないが、例えばQ&Aに示すように部活動指導者の任用等の意見を言うことができる。 【意見】 府教委が積極的にやってもらえるならば、学校運営協議会の値打ちがある。 [質問] 学校運営協議会で「基本的な方針」の承認は、委員の責任が生じるのか。 (回答) 責任については、今後の規則等の整備によるが、来年度から学校運営協議会を設置する。</p> <p><学校経営計画及び学校評価> [質問] 工学系の進学状況や追跡調査はどうか。 (回答) 四年制大学の進学状況は良い方である。追跡調査は、工科校長会推薦者で1回生のみ行っている。来年度からは、調査対象を広げたい。 【意見】 追跡調査結果を、進学指導にフィードバックする工夫が必要。大学も英語教育に力を入れるか、TOIECの成績を380点からどのようにアップさせるか指導を検討している。なお、英語がツールであるから目的意識がないと上達しない。 [質問] 離職率と景気の関係はどうか。 (回答) 離職率の理由として、大半は一身上の都合による退職である。一部は特別な事情である。 【意見】 今年度、ある会社に新入社員が4人入社したいが、3人が辞めた。仕事の内容が理解できずに辞めていく。就職試験受験者には、会社の内部事情を理解させて就職させる工夫が必要。工場見学は行った方がよい。 [質問] 遅刻者件数の目標は3,000で、結果は3,000を超えた。よって、△の評価と考えているがどうか。 【意見】 目標は3,000であるが、昨年と比較して大幅に減っており、○の評価でもよいと考える。 【意見】 単純計算で遅刻者が1日平均10人いることになり、○の評価にはならないと考える。 [質問] 中学校への広報活動の△の評価理由は。 (回答) 中学校訪問件数が目標より少ないためである。 [質問] 中学教員等対象研修の△の評価理由は。 (回答) 昨年度は、中学校教員の研究会から依頼があり研修を実施した。今年度は依頼がなかったためである。</p>
---	---

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	<p>(1) 学力の定着</p> <p>ア 生徒の実態を把握し、学力伸長に向けた授業を展開。</p> <p>イ 授業評価を有効に活用。生徒が主体的に授業参加できるよう工夫改善を進める。</p> <p>(2) ものづくり教育</p> <p>ア 専門教育に付加価値高める</p> <p>イ 外部との連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア・進路実現に向けた生徒の基礎学力アップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年外部模試による生徒学力定点観測・分析を行い課題の克服を図る。 ・自習室等生徒の学習環境の整備を進める。 ・補習講習等で学力保障を図る <p>イ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員相互の授業見学、授業力向上研修を進める。他校の公開研究事例に参加。</p> <p>(2)</p> <p>ア・職業資格取得を組織的に進め、専門教育としての付加価値を高める。</p> <p>イ・大学や企業連携により、ものづくり教育への興味や関心を高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒による授業アンケートにおける授業満足度 80%目標 (H28:79%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の経年値学力の向上 ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」30%(H28:1年18%、3年22%) <p>イ・相互授業見学1人2回以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究授業の実施。(教科) <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断「実習授業満足度」80%(H28:1年75%、3年74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得者:2割増(H28:JMのG:3、S:8、旋盤3級17名) <p>イ・インターンシップ参加数:2割増(H28:65名、H27:15名)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケート結果(質問9) 第1,2回とも80.8% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部模試 経年変化・学力・分析 (◎) ・「家庭学習者の増加」平均26.5% (Δ) (H29:1年生21%、3年生32%) <p>イ・授業見学、公開授業 6月、10月実施 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究授業 6月、11月実施 (○) <p>(2)</p> <p>ア・「実習授業満足度」平均77.0% (Δ) (H29:1年75%、3年79%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得 ジュニアマイスターのゴールド4名、シルバー8名 旋盤3級9名、2級2名 (Δ) <p>イ・インターンシップ 新規企業2社を含む14社42名 (Δ)</p>
2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ	<p>(1) 人権教育と生徒指導</p> <p>ア 発達段階に応じた人権教育の推進</p> <p>イ 問題行動の防止や退学者等の減少に努める。</p> <p>(2) 生徒の自己実現への支援</p> <p>ア 教育相談体制の充実</p> <p>イ 進路実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア・人権講演会や人権HRを実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」共生社会を学ぶ。</p> <p>イ・学校のルール・マナを共有し遵守を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任団と生活指導部の連携強化(情報共有) ・日常的遅刻指導で遅刻減を図る。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により中退者減、不登校減を図る。 ・学習環境の改善を図るため、全教員による学校巡回を定期的に行う。 ・情報倫理に関する指導の充実を図る。 <p>(2)</p> <p>ア・支援教育コーディネータ中心に関係教員の連携強化し、配慮を要する生徒の支援、進路指導を活性化する。</p> <p>イ・就職率100%をめざし、1次内定率の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学系はじめ大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ・離職率調査を継続し、就職者の定着を進める。 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「命や人権の大切さ学ぶ機会多い」の肯定率55%(H28:1年54%、3年45%)</p> <p>イ・担任・生指の連絡会等開く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻年間3,000未満(H28:4,453) ・中途転退学率の減少(H28:1.69%) ・問題行動指導の減少(H28:14件) <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断「先生が相談に応じてくれる」の肯定率55%以上に(H28:1年50%、3年55%)</p> <p>イ・就職内定率100%(H28:100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後3年の就職者の離職率調査(20%以下を確保)(H28:21.7%) ・大学進学希望実現度90%(H28:84.7%) 	<p>(1)</p> <p>ア・「命や人権の大切さ学ぶ機会多い」平均53.5% (○) (H29:1年54%、3年53%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と生指で各担当決定 生指⇒学年担当、学年⇒生指担当 (○) <p>イ・遅刻件数 3,268件 (Δ) 昨年度比26.6%減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転退学者数 2.01% (Δ) 転学者10名、1.06% (1年3名、2年7名) 退学者9名、0.95% (1年3名、2年4名、3年2名) <p>・問題行動 11件、29名 (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・「先生が相談に応じてくれる」平均59.5% (○) (H29:1年53%、3年66%)</p> <p>イ・就職内定率 100% (○) (学校紹介220名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職一次合格率 83.6% (○) (過去5年では最高の合格率) ・離職率(234名就職、回収率90.1%) 24.5% (Δ) ・大学進学実現度 98.0% (○) (50名合格/51名希望)

府立淀川工科高等学校

<p>3 魅力ある 工科高校の 創造と学校 運営体制の 確立</p>	<p>(1) 80周年に向けた取り組み ア 本番の準備 イ 環境整備 (2) 中学校への戦略的広報活動 (3) 工業教育の研究と教員育成 (4) 生き生きとした学校生活 学校組織の改善 ア 部活動の振興 イ 学校課題の検討と組織の検討 (5) 地域貢献</p>	<p>(1) ア・80周年記念事業に向け校内組織整備。 イ・環境整備を計画的に進行させる。 (2) ア・本校教員一斉中学校訪問、体験入学、学校見学会、進路相談会、出前授業等を効果的に行い志願者増めざす。 イ・中学校教員対象の説明会やものづくり教室などを通じ工科の魅力を伝える。 (3) ア・ものづくり技術研修とミドルリーダー育成。 (4) ア・部活動をはじめ特別活動が活発に展開できる体制の構築。活気ある部活動の推進。 イ・将来検討委員会を定期開催。学校課題を分析検討。 ・学年と教科担当等の情報共有のため、教科担当者会議を開催。 ・担任と支援者の連携強化。 (5) ア・部活動及び生徒会による地域連携に取り組む。</p>	<p>(1) ア・「多目的ドーム」建設完成 ・記念式典・行事の成功 (2) ア・平成30年度入学生選抜 志願者倍率：1.15倍 イ・中学校訪問のべ200校(H28:156校)や体験入学、見学会、相談会、出前授業(6校)実施。 ・中学校教員等対象行事数：2回 (3) ア・実施回数3回 (4) ア・学校教育自己診断「将来の進路に向けた行事が充実」H29：70% (H28：1年68%、3年67%) ・部活動加入率70%(H28：69.1%) イ・年2回実施 ・組織運営の円滑化 ・年1回以上実施 (5) ア・小中学校との連携を5回以上取り組む。(H28：5回)</p>	<p>(1) ア・「多目的ドーム」 11/24引渡し(○) イ・記念式典・竣工式 11/25実施(○) (2) ア・入試倍率 総合245/280、0.875倍 進学65/40、1.625倍 全体310/320、0.969倍(△) イ・中学校訪問150校、出前授業9件、体験入学参加中学生186名・付添い者59名、学校見学会2回、個別相談会19回(○) ・中学校教員等対象行事 今年度依頼なし(ー) (3) ア・ものづくり研修 OJTでベテラン教員から若手教員に各種機械操作、実習教材、検定課題、メンテナンス等ものづくり技術について10数回伝達講習を実施(◎) (4) ア・「将来の進路に向けた行事が充実」平均70.0%(○) (H29:1年67%、3年73%) ・部活動加入率(11月調査) 66.8%(△) イ・H31旅費縮減による修学旅行費の見直し(○) ・教科担当者会議11月の1回実施(○) ・担任・支援者との連携(◎) (5) ア・小中学校との連携 7回実施(◎)</p>
--	--	---	---	---